

主要生命保険会社の令和4年9月期決算の概要

1. 損益の状況（単体）

- 保険料等収入は、海外金利の上昇により、一時払外貨建て保険の販売が増加したことなどから、前年同期に比べ増収。
- 中間純利益（純剰余）は、新型コロナウイルス感染症に係る給付金の支払増加等による基礎利益の減益に加え、有価証券売却損益の悪化等によるキャピタル損益の減少などから、前年同期に比べ減益。

（単位：億円）

	令和2年9月期	令和3年9月期	令和4年9月期	前年同期比
保険料等収入	125,514	133,709	152,481	18,772
基礎利益	19,065	18,193	14,524	▲3,669
キャピタル損益	▲608	6,249	1,025	▲5,224
臨時損益	▲5,239	▲7,310	▲5,326	1,983
特別損益	▲1,790	▲2,788	▲293	2,494
中間純利益（純剰余）	8,042	10,236	6,734	▲3,501

（注）今期より基礎利益の算定方法について、為替に係るヘッジコストを基礎利益に含める等の改正を実施。これを踏まえ、多くの会社が前期分についても同様の方法で算定。

2. 健全性の状況（単体）

- ソルベンシー・マージン比率は、海外金利の上昇による、その他有価証券評価差額金の減少等から、前年度末に比べ87.6%ポイント低下。

（単位：%）

	令和3年3月期	令和4年3月期	令和4年9月期	前年度末比
ソルベンシー・マージン比率	1005.0	993.4	905.8	▲87.6Pt

（注）日本生命、第一生命、明治安田生命、住友生命、太陽生命、大同生命、富国生命、大樹生命、朝日生命、ソニー生命、ジブラルタ生命、アクサ生命、アフラック生命、メットライフ生命、東京海上日動あんしん生命、第一フロンティア生命、三井住友海上プライマリー生命、プルデンシャル生命、かんぽ生命の19社を集計。